



中華民國 台灣投資通信

発行: 中華民國 經濟部 投資業務処 編集: 野村総合研究所(台湾)

May 2018

vol. 273

■今月のトピックス

台湾の医療サービス産業の国際化と
日台での連携機会

■日本企業から見た台湾

～穴吹東海保全
総経理、宮武保朝氏インタビュー～
台湾の建物管理サービス高度化を目指す
穴吹東海保全

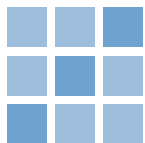
■台湾進出ガイド

改正「科学工業園区設置管理条例」

■台湾マクロ経済指標

■インフォメーション

【今月のトピックス】



台湾の医療サービス産業の国際化と 日台での連携機会

医療サービスの国際化は台湾政府の掲げる重点項目の一つである。2007年には行政院が「医療サービス国際化旗艦計画」を策定し、同年には「国際医療管理作業グループ」が設立され、台湾の医療ツーリズムの発展のための対外窓口と情報プラットフォームとしての役割を果たしてきた。最近では、海外患者の受け入れといった医療ツーリズムの推進のほか、「新南向政策」を医療・衛生面からサポートする「医療衛生合作及び産業チェーン発展旗艦計画」のもと、医療サービスの国際的な連携や医療技術の指導などにも積極的に取り組んでいる。医療ツーリズムにおける受け入れ患者数の増加(インバウンドの拡大)と医療サービスの輸出の拡大(アウトバウンドの拡大)を目指している。

台湾の医療サービスの国際化の現状

台湾における医療サービスの国際化については、その初期段階では発展途上国における人道支援や感染症の予防支援などを主としていた。その後、経済活動のグローバル化や観光産業の発展を受けて、2007年より医療ツーリズムの普及に取り組みははじめ、台湾が強みを持つ7つの医療分野である、美容医学、頭蓋顔面再建、生殖医学、健康診断、肝移植、関節置換、そして心血管治療に注力してきた。現在では台湾国内の74の医療機関が外国人の旅行客或いは患者向けに医療サービスを提供しており、うち19の医学センターは医療ツーリズムのネットワークに加入している。2017年に台湾を訪れた海外からの患者数は約30.6万人にのぼり、毎年20%以上の成長率を記録している。これらの患者は中国と東南アジアからの訪問が多くを占めている。

台湾には世界で認められた先端医療技術(ダヴィンチ手術、体外式膜型人工肺など)が数多くあり、臨床実績において海外諸国をリードしているものも多い。また最近では各医療機関が医療・看護人材の交流やトレーニング、医療サービスの輸出に取り組んでおり、大学病院では毎年約500名の外国人(中国人

を含まず)に対して、整形外科、産婦人科、リハビリ科、心臓血管外科で必要とされる技術の指導を行っている。例えば、病医療グループである秀伝医療体系では、フランスの遠隔低侵襲手術訓練センター(IRCAD)と提携し、アジアで唯一の低侵襲手術用の訓練センターを設置している。

各医療機関は海外現地の医療水準の向上にも努めている。長庚医院の頭蓋顔面センターは、フィリピンとインドネシアにおいて現地の医療機関が頭蓋顔面奇形患者向けの施設を設立する際に援助を行った。また、台中の榮民総医院の医療チームはベトナムに赴き、現地の腎臓移植チームに対してトレーニングを実施している。高雄の長庚医院はベトナムのVinmecグループの肝移植技術の最高指導顧問を務めており、高雄医学大学附属病院はマレーシアのGrace Surgical Specialist Clinicに対して人的支援と技術指導を行っている。

台湾の医療機関と現地の華人グループ・企業との良好な関係は、医療ツーリズムにおける患者の受け入れや、現地での医療拠点の設立、医療サービスの向上に役立っている。例えば、彰化基督教医院は台湾企業によるベトナムのドンナイ省での病

今月のトピックス

院設立(震興病院、Shing Mark Hospital)をサポートし、手術治療での提携も行ってきた。またマレーシアの華人系企業である群利集團(MATRIX)と共同でマレーシアのヌグリ・スンビラン州Icon Parkにおいて専門医療センターと看護学校を設立することを計画している。また、台北の慈済医院はインドネシアの慈済分会に所属する華人による骨髄移植医院の設立をサポートしており、年内の完成が予定されている。

図1:台湾の医療サービスの国際化

患者受け入れ Inbound	<ul style="list-style-type: none"> ●7つの特色ある医療ツーリズム ●華人/華僑/台湾企業のネットワークを活用した患者の受け入れ(2017年実績、約30.6万人)
サービス輸出 Outbound	<ul style="list-style-type: none"> ●豊富な臨床データ。年間500名を超える外国人医療従事者への技術供与 ●人道支援の理念に則り、数多くの医療機関が新南向国家にて拠点を設立。情報提供や技術支援を行っている ●華人と台湾企業のネットワークに基づく点と点の連携提携

資料元:NRI整理

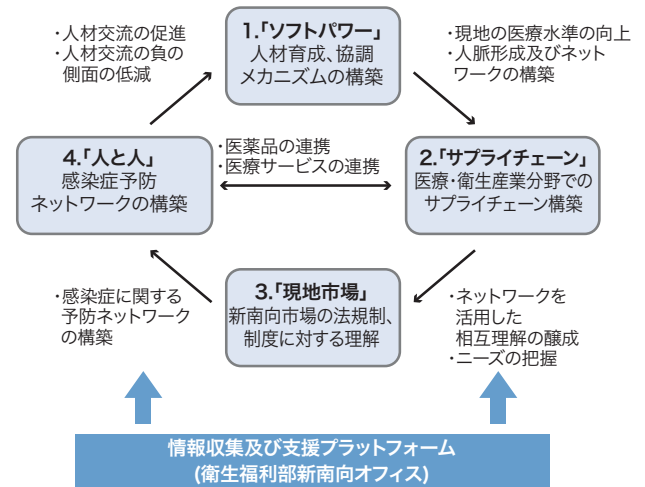
台湾の医療サービスの水準は国際的にも十分競争力があるものの、大手医療機関の多くが財団法人であるということから、投資に制限があり、海外の医療機関に直接投資をすることができない。そのため、提携事例の多くは現地のパートナーが人脈を頼りに台湾の医院に連絡してくることが多く、受動的なものであり、点と点での提携にとどまっている。

台湾政府が積極的に進める医療衛生合作及び産業チェーン発展旗艦計画

2017年に行政院が発表した「新南向政策」を医療・衛生面から支えるものとして「医療衛生合作及び産業チェーン発展旗艦計画」が掲げられている。「ソフトパワー」「サプライチェーン」「現地市場」及び「人と人」の4つの連携と情報プラットフォームとしての「医療衛生新南向オフィス」の設立を通じた市場開拓を目指している。当計画では、医療従事者に対する技術指導などのソフトパワーを通じて、現地の人脈を深掘りし、また各サプライチェーンにおけるネットワークを利用することで、新南向市場の法規制や制度についての理解を深め、医療産業の輸出を拡大させることを目指している。

衛生福利部も中長期計画において、4年間で16億台湾元を新南向国家との医療の提携に投じることを決めており、インドネシア、インド、タイ、ベトナム、マレーシア、フィリピン、カンボジア及びミャンマーの8か国・地域を対象としている。また従来のように

図2:新南向「医療衛生合作及び産業チェーン発展旗艦計画」



資料元:衛生福利部

各医療機関が自ら現地のパートナーを開拓するのではなく、「一国一センター」方式による医療機関の提携を目指しており、医療サービスの提携のみならず、人材交流、患者の受け入れ、医療機器の輸出においても、単一の医療機関が窓口となるような体制の構築を目指している。

日台連携による東南アジアの医療サービスの開拓

シンガポール、タイ、マレーシア、インドといった国々は、地理的・文化的な近接性を活かして、東南アジア内で医療サービスを展開している。台湾と日本は後発組となるため、国内で培った既存の医療産業の強みを生かし、ハイエンドブランドとしての地位を確立することで、現地の潜在的なパートナーを開拓したり、医療ツーリズムの受け入れ患者数を増やしたりするべきである。

ここ数年、東南アジアの医療・健康産業は急速に発展しており、それに伴い医療従事者や病床数の不足といった問題が顕在化してきている。台湾と日本は双方の強みを生かすことでこうした問題に対処すべきである。例えば、日本企業と台湾の医療機関が一緒になって現地でニーズの高い医療サービスを提供する場合、日本企業が投資や医療設備の提供を行い、台湾の医療機関が職員の派遣や現地の医療従事者の訓練を行うといったことが可能である。また、双方が現地企業や華僑のネットワークを活用することで、さらなる市場の開拓や現地の医療サービス水準の向上が期待できる。

(方寧:n-fang@nri.co.jp)